

地方独立行政法人山口県産業技術センター評価委員会（第42回）の審議要旨

- 1 日 時 令和8年7月21日（火）10:00～11:25
- 2 場 所 山口県産業技術センター 多目的ホール
- 3 出席者 鈴木委員長、岡藤委員、山崎委員、山下委員、吉村委員
(委員長以外50音順)

《内 容》

I 委員長選出

委員の互選により、鈴木委員を委員長に選出

II 審議事項

- ・地方独立行政法人山口県産業技術センターの役員に対する報酬等の支給の基準の変更について
- ・令和7年度における業務の実績に関する評価について
- ・令和7年度における財務諸表等について
→資料1～9及び補足資料1～6により、事務局・法人から説明

《資料説明後、質疑応答・意見交換》 ●委員 ○法人

I 地方独立行政法人山口県産業技術センターの役員に対する報酬等の支給の基準の変更について

《各委員から意見等なし》

(委員長)

- 山口県産業技術センター役員報酬等規程の一部改正については「意見なし」とする。

《各委員了承》

II 令和7年度における業務の実績に関する評価について

＜評価全体に対して＞

- 評価は適正と思われる。
- 同感である。
- すべての項目で適正と思われる。

＜新規の取組に関する評価について＞

- 新たに実施した取組が多い「効果的・効率的な業務運営」などは、もっと高評価でも良いと思うが、どのように評点を決定しているのか。
- 「技術支援サービス充実への取組」では、技術課題探索事業や表面分析評価技術高度化事業など新たな取組が多く実施されているため、もっと高評価でも良いと感じた。
- どちらも新たな取組を実施しているが、まだ具体的な成果までは出ていないと判断し、3点としている。一方で、「機動性の高い組織体制の確保」については成果が表れていると判断し、4点としている。

＜特許について＞

- 母数が小さいため、年度ごとの増減による影響が大きい数値目標であると推察するが、次年度以降の改善策があれば聞かせてほしい。
- 令和6年度に知的財産管理指針を策定し、譲渡や処分を集中的に進めた結果、令和6年度は目標16件に対して19件の実績で評点4点となった。令和7年度は、譲渡の件数が令和6年度の6件から0件になるなど、目標16件に対して11件の実績となったが、2年間で考えると目標32件に対して30件と、概ね目標を達成できていると考えている。今後は、新規の取組である「3Dものづくり技術によるデザイン支援事業」や「表面分析評価技術高度化事業」などから共同研究につなげ、特許の共同出願数の増加に力を入れていきたい。
- 少し数値目標を下げてでも良いのではないか。
- 同感である。目標値をどのように定めているのか。
- 第3期中期目標期間における実績値から、例えば5%程度の向上を目指した5年間の目標値を設定し、それを踏まえて各年度の目標値を定めている。
- 数値目標の設定方法については、今後検討する必要があるのではないか。

＜広報戦略について＞

- どのような内容であれば相談できるか、どのような支援を実施してもらえるのか、中小企業に伝えることが重要であると思う。
- 相談の敷居が高い、何を相談できるかわからないという声があることも理解している。技術相談・支援室に気軽に相談していただけるように、産技センターが支援できることを出張相談会等で積極的にPRしていきたい。
- （計画的に広報活動を行うことは）非常に良い取組と思う。個別の企業へ広報していくのはハードルが高いと思われるため、例えば観光で言えば、観光連盟などと連携するなどの取り組みも重要であると思う。
- 関係機関との連携は非常に重要であると認識している。そのため、大学や高専等とのネットワーク強化のために技術者交流会を実施し、産業振興財団や商工会議所、中央会との連携強化のために出張相談会を実施していく予定である。
- 業種や技術分野ごとに具体的な支援事例等が示されると良いと思う。
- 業種や技術分野ごとの支援内容の整理については今後検討していきたい。今年度広報・デザイングループを設置しており、センターのPRとあわせて広報活動を行っていく必要があると認識している。

＜3Dものづくり技術によるデザイン支援事業について＞

- 事業の具体的な流れを教えてほしい。
- 企業から3Dデザインに関する相談を公募し、その中から選定したテーマを実施している。具体的な支援内容はテーマによって異なり、大学等と連携して実施しているテーマもある。
- 非常に良い取組だと思うので、積極的に広報してほしい。

Ⅲ 次回、第43回評価委員会（8/4）について （委員長）

- 次回の評価委員会では、評価書素案に関する意見について審議したい。
《各委員了承》

以上